





蟹ヶ坂瓦窯跡〔飛鳥時代後期〕 昭和58年の調査で、半円形の溝で囲まれた4基の窖窯が見つかりました。西賀茂瓦窯では最も古く、約4km南の出雲寺（上御霊神社境内）に瓦を供給していたようです。西賀茂中学校の敷地にあたります。



醍醐の森瓦窯跡〔平安時代前期〕 昭和48年に道路工事に際してロストル式平窯1基が見つかりました。緑釉軒丸瓦などが出土しています。西側の敷地は樹木が生い茂り「醍醐の森」の姿を偲ばせています。



角社瓦窯跡〔平安時代前期〕 西賀茂瓦窯跡で最初に調査された瓦窯跡です。角社とも呼ばれる大將軍神社の北方で東西2群に分かれています。いずれもロストル式の平窯で東群（写真右上）が3基、西群（写真左上）は5基確認されています。東群は神社参道沿いの宅地になっていますが、西群の一部は畑地の状態で残されています。

大宮北山ノ前瓦窯跡〔平安時代中期～後期〕 昭和38年に発見された瓦窯跡で、昭和55年に灰原を確認しています。西側は畑地として残っています。



鎮守庵瓦窯跡〔平安時代前期〕 鎮守庵公園沿いの道路部で、南北2群に分かれています。南群は2基のロストル式平窯とロストルの無い平窯が見つかりました。北群は4箇所で灰原を確認し、一部が調査されて緑釉瓦が出土しています。西側の丘陵は今も竹林のままです。



河上瓦窯跡〔平安時代中期〕 昭和34年に発見された瓦窯跡で、昭和55年にロストル式平窯を確認しています。軒平瓦に「河上」の銘があることから河上瓦屋と呼ばれています。瓦窯の周辺は耕作地が残っています。